

### 展示紹介

## 特別展「那珂湊反射炉—鉄と近代を創る—」

アヘン戦争や外国船の沿岸出沒など対外危機が叫ばれた19世紀、幕末の日本、水戸藩は海防を重視するうえで、西洋技術に基づく鉄製の大型砲を製造する必要性に迫られました。そのため、その製造施設である反射炉が建設されたのです。

この事業自体は、主導した徳川斉昭の失脚による中断、戦禍により反射炉自体が破壊されるなど、必ずしも成功とは言えませんでした。

それでも、反射炉事業を担った技術チームの経験と、そこで培われた技術は、明治時代になると、東北釜石・九州八幡での製鉄事業に引き継がれました。つまり、日本の近代産業の成立に大きく寄与したのです。

近年、茨城県では、先端素材事業所が招致されたり、国によるスーパーサイエンスシティに指定される自治体が現われるなど、新たな先端技術が導入される環境下にあります。本特別展では、そうした技術的先駆けの環境が、本県ではすでに幕末期には整っていたことを明らかにするとともに、幕末の水戸藩の歴史を産業史・技術史(製鉄、セラミック工業、工業機械など)の視点から捉え直していきます。

**特別展**  
**那珂湊**  
**反射炉**  
鉄と近代を創る

2/16 [金] → 4/7 [日]  
開館時間 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
休館日 2月16日(金)・2月17日(土)・2月18日(日)・2月19日(月)・2月20日(火)・2月21日(水)

講演会  
「江戸米船—徳川斉昭も目撃した運山代官—」  
日野 久雄(東京大学) 11時 午会費1,000円  
のち(二階)第一展示室特別講演「幕末の海防と製鉄」(第三)

講演会II  
「那珂湊反射炉とその後の大島高任」  
日野 久雄(東京大学) 11時 午会費1,000円  
特別講演「幕末の海防と製鉄」(第三)

みどころ解説 1・2  
この日は幕末の海防と製鉄をテーマに、  
日野 久雄(東京大学) 11時(1時) 午会費1,000円  
特別講演「幕末の海防と製鉄」(第三)

ワークショップ「おもしろい数字」  
日野 久雄(東京大学) 11時(1時) 午会費1,000円  
特別講演「幕末の海防と製鉄」(第三)

特別公開  
「金七郎—赤道其の文化館まで—」  
特別公開期間：2月24日(土)～3月1日(土)  
午後1時～4時(無料)

茨城県立歴史館  
300-1 Fuchu, Ashino and Hara Museum  
〒310-0034 茨城県水戸市船町 2-1-15  
Tel. 029-225-4423 Fax. 029-228-4277  
https://www.rekshikan.lbk.jp/

## 第1章：反射炉とは

反射炉の役割・機能を説明し、それが日本では、幕末のある期間に、一冊のオランダの本を頼りに、各地に造られたことを述べます。



那珂湊反射炉模型  
当館

## 第2章：幕末の社会情勢と海防施設

19世紀に頻発する水戸藩領沖における外国船の出没は、藩の攘夷思想・海防論を高揚させ、そのなかで、反射炉事業も実現化しました。反射炉を建設するに至る対外的脅威と、それを主導した水戸藩主徳川斉昭の対応を見ていきます。



大津浜（北茨城市）に上陸したイギリス人

「文政七年甲申夏異国伝馬船大津浜上陸并諸器図等」より  
茨城県立図書館（当館寄託）

## 第3章：水戸藩反射炉事業、始動

水戸藩による反射炉事業、その場所はなぜ那珂湊なのでしょう。そして資材・原材料はどこから供給されたのでしょうか。こうした基本事項、および建設や大砲鑄造の過程を明らかにするとともに、藩の枠組みを越え、さらに身分制度も越えて結成された技術チームの実態を探っていきます。



伝飛田与七使用製図道具 県指定史跡附那珂湊反射炉資料  
ひたちなか市教育委員会

#### 第4章：技術のバトンをつないで

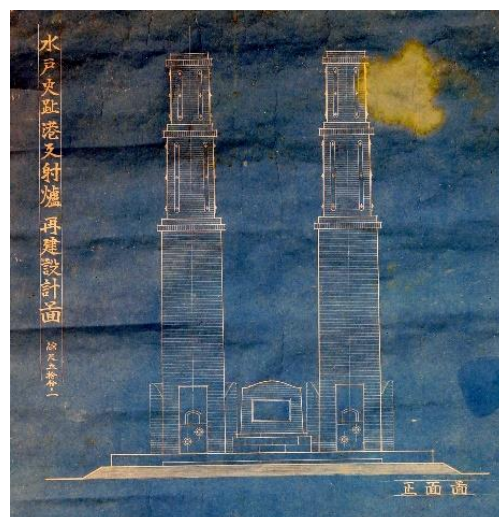
成功の兆しの見えはじめた水戸藩反射炉事業ですが、斉昭の失脚などにより中断、延期を余儀なくされ、技術チームも解散してしまいます。そして、ついには天狗党の乱那珂湊戦争での反射炉自体の破壊をもって無残な最期を迎えました。本章では、事業が不完全のまま、もとの藩に戻った技術者たちのその後をたどります。なかでも盛岡藩士の大島高任が、那珂湊での研鑽と経験を踏まえて手がけた東北釜石での製鉄事業が日本の近代製鉄の原点となり、やがて北九州での国家事業である官営八幡製鉄所として大輪の花を咲かせるまでをたどります。



橋野高炉 耐火レンガ塊  
釜石市教育委員会

#### 第5章：反射炉復元模型を造る

幕末期の徹底的な破壊を受け、那珂湊は苦難の明治時代を迎えました。それでも、地元の力で鉄道を敷き、商業学校も建てたのです。自ら復興に取り組む那珂湊の人々でしたが、大正時代となり、反射炉の在りし日の姿を望む機運もでてきました。それは、昭和になり、反射炉の実物大復元模型の建設によって結実しました。日本が対外的膨張路線を進むなか、地元那珂湊にて、その活動の中心となった教諭、関一（せき・はじめ）の事績を追っていきます。



水戸史址港反射炉再建設設計図 ひたちなか市教育委員会

## ◇関連行事

### (1) ①講演会Ⅰ「江川英龍－徳川斉昭も一目置いた葦山代官－」

日時：令和6年3月16日（土） 午後2時～3時30分

講師：工藤 雄一郎 氏（伊豆の国市教育委員会文化財課 課長）

会場：茨城県立歴史館 講堂

定員：150名（要入館券・事前予約制）

### ②講演会Ⅱ「那珂湊反射炉とその後の大島高任」

日時：令和6年3月23日（土） 午後2時～3時30分

講師：小野寺 英輝 氏（釜石市立鉄の歴史館 名誉館長）

会場：茨城県立歴史館 講堂

定員：150名（要入館券・事前予約制）

### (2) ①みどころ解説1

日時：令和6年2月18日（日） 午後2時～3時

担当：飛田 英世（当館資料調査専門員）

会場：茨城県立歴史館 講堂

定員：150名（先着順、要入館券）

### ②みどころ解説2

日時：令和6年3月17日（日） 午後2時～3時

担当：飛田 英世（当館資料調査専門員）

会場：茨城県立歴史館 講堂

定員：150名（先着順、要入館券）

### (3) ワークショップ「おもしろ鉄学」

日時：令和6年2月23日（金・祝） 午後1時30分～2時30分

講師：日本製鉄株式会社東日本製鉄所鹿島地区

定員：20組（事前予約制）小学生対象〔保護者同伴〕

（史料学芸部 学芸課 資料調査専門員 飛田英世）